

最優秀賞

乙部町立乙部中学校 3 学年 みずがみ 水上 おうすけ 桜佑
「できること」



「おかわりできる奴いるか？」

担任が今日も何か言っている。私たちの学級は、人数が少ない。それなのに、「給食を残さず食べましょう」と担任が言ってくる。学校に来られない友達の分や、休んだ人の分の給食を合わせるとなかなかの量である。給食を残さず食べることがそんなに大切なことなのかと、1年生の頃は考えていた。

皆さんは食品ロスという言葉聞いたことがあるだろうか。食品ロスとは、まだ食べられる食べ物が捨てられてしまうことだ。日本では毎年612万tの食品ロスが発生しているそうだ。これを国民一人当たりで換算すると、毎日お茶碗一杯分の食べ物を捨てていることになる。

皆さんはどのようにこの問題を解決したらよいと思うだろうか。

「そもそも食品ロス削減必要くない？」とと思っている人もいるかもしれない。でも、捨てられる食べ物は、ゴミとして処理場に運ばれ可燃ゴミとして処理される。ゴミを運搬するにもお金がかかる。焼却する際には二酸化炭素を排出する。ゴミをこのままのペースで捨てると、日本の埋立地は約20年でなくなってしまう。どう考えても、食品ロス削減は必要なのだ。

私には、食品ロスを減らすためにできることが二つあると思う。

一つ目は、「自分の食べられる量をしっかり把握すること。私のクラスは給食を残すことがほとんどない。それは自分の食べられる量を正確に把握し、お互いにどれくらい食べられることもある程度把握しているからだ。

自分の給食の量を見て「この量は食べきれなさそうだ」や「この量を時間内に食べるのは難しそうだ」と判断できると量を減らしてもらえたり、ほかの人と交換してもらえたりする。この判断ができないと給食を残してしまうことになる。

このように自分の食べられる量を把握出来ていないと、『食べ残し』に繋がるのだ。「食べ残し」は、家庭における食品ロス全体の27%を占める大きな問題なのだ。

二つ目は「賞味期限に気を遣う」こと。

ある日、母と買い物に行った時、母に「卵取って」と言われた。私は適当に近くにあったものを渡した。しかし母は「これしかないの？」と聞いてきた。私は言われたことの意図がよく分からなかった。これしかないわけではないけど、置いてある卵と渡した卵の違いが分からなかったからだ。

私は「なぜこれじゃだめなの」と聞くと「これ賞味期限近いんだよね」と母は答えた。なるほど、私が渡した卵と置いてある卵では、賞味期限が違ったのだ。「勉強になるな」と思いながら、牛乳の賞味期限を眺めながら、ふと考えた。「賞味期限が切れたらこの牛乳は捨てられるのかな。もしそうならこの選び方で良いのだろうか」

このようにみんなが賞味期限が遠いものを選んでいると、当然、賞味期限が近いものは売れ残り廃棄されていく。

食品ロスを減らすためには、「すぐに食べるものは賞味期限が近いものを選ぶ」気遣いをみんなですれば食品ロスを減らすことができるのではないだろうか。

3年間給食を残さず食べ続けた結果、私は色々な人の顔を思い浮かべることができるようになった。給食を作ってくれている人、食材を育てている生産者。一緒に残さず給食を食べてくれる仲間。

世界では、9人に1人が飢餓状態で3人に1人が何らかの栄養不良だという。

僕には何ができるだろうか？

あなたには何ができますか？